

**特集 越佐の芸能と文化**

神林恒道 越佐の歴史的文化的風土

カラーグラヴィア

橋本博文 佐渡金銀山の文化的景観——神事を中心として

天野文雄 佐渡と世阿弥——「配流の理由」「在島中の待遇」「帰還の成否」についての再考

山本修巳 佐渡の民謡・民踊と文化——相川音頭と佐渡おけさ

池田哲夫 佐渡の鬼太鼓について——鬼太鼓研究小史

西橋八郎兵衛 佐渡に伝わった文弥人形

藺田郁 文弥節と佐渡の文弥人形

神林恒道 雪国の白に想いを託した画家——富岡惣一郎の画業

〈Symposium 1〉「アウトサイダー・アート」再考 その流通とマーケット」報告

服部正 「アウトサイダー・アート再考——その流通とマーケット

藤原貞朗 山下清のマーケティング戦略

〈Symposium 2〉民族芸術と合唱

永原恵三 民族芸術と合唱

井上登喜子 19世紀ドイツと合唱——ひと・空間・民族をつなぐ合唱活動

八木玲子 民族合唱劇“群芸「鳴神」”の表現戦略

**民族芸術学の諸相**

福本繁樹 染めの現象と本質

中西學 装飾技法としての墨流しとその変遷

前崎信也 中国芸術国際展覧会への日本の参加と国際文化振興会

——重要美術品保護と美術を用いた文化外交との対立の視点

住田翔子 風景化する廃墟

——1980年代以降の日本における廃墟へのまなざしに関する一考察

鳥丸知子 ミャンマー及び周辺国におけるカード織り

岡田恵美 少数民族文化の観光資源化と「芸能」としての復興のプロセス

——インド北東部ナガランド州ホーンビル祭からの考察

荻原眞子 シベリアの山岳崇拜と母性——その始原をたどる

河内華子 ヘルドルプ・ホルツィウス作《スザンナと長老たち》

——成立過程の再構成と切り詰められた構図の意図

井上登喜子 ベルリン・フィルのレパートリー形成における指揮者の役割

——客演指揮者と地域的多様性

内藤久子 19世紀「国民オペラ」の表象

——B.スメタナの喜歌劇と地方色（ローカル・カラー）の描写

**民族芸術学の現場**

乾 淑子 展示解説——「浮世絵師 歌川国芳」展

加藤玖仁子 白紙・黒糸・横と縦

外館和子 福本潮子の出版記念展——一人の作家を通してみる染という領域

畑井恵 パラダイスのゆくえ——「演劇まちあるき」に見る共有のあり方

北村仁美 シンプルなかたちのなかの豊かさ——アニッシュ・カプーアと田中信行の作品比較を通して

深津裕子 織りだされた世界——ピーター・チンのコンテンポラリー・ダンスと森本喜久男のクメール絹織物  
山本真紗子 近代着物研究の発展の可能性—メトロポリタン美術館の特別展  
鈴木慈子 もうひとつの近代  
吉村良夫 帯の風習にまつわる独特の美意識  
中塚宏行 木村秀樹の40年 近作展と回顧展から——「うつし(写・移・映・転)の連鎖と戯れ」から「すり(刷、擦、摺、磨)の構築」  
へ  
加藤義夫 Stream of Nature  
小野尚子 ボヘミアン・ガラスの輝き  
川田都樹子 「学芸員N」の「眼と心とかたち」  
坂上義太郎 震災から20年——震災 記憶 美術  
佐々木千恵 ひびきあうとき：「第2回総社芸術祭2015 心のひだ・きびの美術—遠との共鳴—」  
吉原美恵子 「鳥のことば」——桜井真樹子の歌舞  
竹口浩司 紙による表現の多様性と可能性  
後小路雅弘 浜田知明 あるいは戦後70年目の「戦争」展示

〈第12回木村重信民族芸術学会賞〉

吉田憲司 岡田裕成著 『ラテンアメリカ 越境する美術』

〈大会報告〉

第31回民族芸術学会大会報告 神林恒道

彙報